

学章・シンボルマーク・マスコットキャラクター紹介



■学章

静岡県、日本の象徴である富士山をモチーフにデザインされた学章は、開学以来、親しまれ、使用されています。
富士に医大、下部に大学の大、湾曲部は遠州灘と波、突起部は浜名湖をイメージしています。



■シンボルマーク

本学のローマ字での頭文字「h」をデザイン化。
水色部分が遠州灘（下部分の曲線）、浜名湖の水面、浜松から望む富士山（右上の突起）で浜松の特色、全体の曲線が生命の源である自然な水のゆらぎが医療の重要キーワード「生命」を表現しています。
また、オレンジ色の丸と水色部分の両方を合わせて全体を見ると、元気、健康、躍動を表現した人（丸を頭、水色の両端を手に見立てる）に見えます。
人類の健康と福祉に貢献することをイメージしています。



はんだやまっぴー

■マスコットキャラクター

半田山の木々から生まれた山の精。
常に最新の医学を勉強し、患者さんを笑顔&元気にすることが何よりの生きがいとしています。

国立大学法人

浜松医科大学

NEWS LETTER

開学50周年特別記念号

国立大学法人

浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山一丁目20番1号
〔TEL〕053-435-2111(代) 〔WEB〕<https://www.hama-med.ac.jp/>



開学50周年に寄せて

令和6年6月7日をもって開学50周年を迎えました。開学50年を迎えることができましたのも、先輩各位を初めとする教職員の皆様のご尽力と関係各位のご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

卒業生は昨年度までに医学科4,641名、看護学科1,757名に達し、地域医療のみならず、全国の医療の現場や研究分野、行政関係等多方面で活躍しています。私は学長として9年目を迎えますが、初年度より一貫して運営の指針を建学の理念に置いてきました。「良質な医療人を育成し、独創性のある研究成果を世界に発信し、地域医療の中核を担う」と謳っている建学の理念は、医療や看護の高度化、専門化が顕著な現代でも聊かも揺るがない本学の礎と言えます。

本学は、教育、研究、診療、いずれの点でも全国国立大学の中でもトップグループにあります。教育においては、優れた医療人を指すため、多様性の理解と学位授与基準の示されたコンピテンシーの修得を目的とした、英語、倫理、心理学等の6年間を通した修学や海外での臨床実習の推進等、教学改革も順調に進んでおります。加えて2年前から医学部としては珍しくアントレプレナーシップをカリキュラムに組み込んでおります。看護学科においてもこれからの医療・看護に必要な看護職の専門化、高度化を推進しており、質の高いチーム医療の実践が可能となっております。研究でも文科省等の評価も高く、競争的資金の獲得も単科医科大学の中でトップであり、本学の強みである光医学研究を中心に多分野で質の高い研究が行われております。本年度から光医学研究の更なる推進のため、光医学総合研究所を設立しました。診療では本学附属病院において患者さんの状態に対応した治療を実施できる体制を強化し、地域の医療機関、医師会、行政等と密接に連携しながら、地域医療における最強で最後の砦として高度な医療を安全に提供しております。さらに来年度から浜松医療センターと本学附属病院とで構成される地域医療連携推進法人がスタートする予定です。地域医療の集約化と機能分化に多大な貢献が期待されます。

また、産学官連携においても今年度、国立大学法人としては全国初となる産学官連携推進外部法人「奏」がスタートしました。他大学や企業、医療機関との共同研究の迅速な意思決定と事業の持続性が飛躍的に向上します。

本学は今後も国立大学法人としてのミッションを果たしつつ、世界へ飛翔する大学を目指して参ります。関係各位並びに地域の皆様におかれましては、本学の運営指針や諸活動をご理解頂き、変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

施設名称

1 管理棟	8 総合人間科学・基礎研究棟
2 講義実習棟	9 附属病院
3 臨床講義棟	10 PET-CT棟
4 附属図書館	11 探索的臨床研究施設
5 基礎臨床研究棟	12 先端医療センター
6 医工連携拠点棟	13 フォトン研究棟
7 看護学科棟	14 RI動物実験施設



令和6年6月

国立大学法人
浜松医科大学長

今野 弘之
Hiroyuki Konno



1974〔昭和49年～〕大学創設期

■昭和49(1974)年	
6月7日	浜松医科大学設置 医学部医学科、附属図書館及び事務局設置
6月22日	入学試験実施3,508人受験
6月29日	合格発表
7月4日	医学部医学科第1回入学式(101名入学)
■昭和52(1977)年	
4月18日	医学部附属病院設置
6月13日	高橋副学長が恩賜賞・日本学士院賞を受賞される。 「X線による生体病理解剖の研究」
11月～およそ15ヶ月間	第19次日本南極地域観測隊隊員(医学)に参加する。
■昭和53(1978)年度	
	初めて外国人留学生を受け入れる。
11月15日	附属図書館竣工
■昭和54(1979)年	
4月1日	動物実験施設設置
11月5日	高橋副学長が文化功労者として顕彰される。
11月19日	腎臓移植(生体腎)を初めて実施する。(静岡県内初)
■昭和55(1980)年	
4月1日	大学院医学研究科博士課程設置
4月17日	高橋副学長に本学第1号名誉教授を授与する。
■昭和56(1981)年	
4月1日	実験実習機器センター設置
■昭和57(1982)年	
	富士山衛生センターに医師を派遣する。 以後毎年派遣
■昭和59(1984)年	
11月3日	高橋名誉教授が文化勲章を授章される。

1985〔昭和60年～〕成長期・発展期

■昭和60(1985)年	
5月17日	保健管理センター設置
7月	故高橋名誉教授がスウェーデン王立科学アカデミー・ゴールドメダル賞(放射線防護)を受賞される。
■昭和62(1987)年	
11月13日～26日	国際大学交流セミナー開催(財)日本国際教育協会との 共催で中国医科大学を招へいする。
■平成3(1991)年	
4月12日	量子医学研究センター設置 光工学や光技術を医学の予防・診断治療へ応用するための 学内共同教育研究施設として我が国初の量子医学研究 センターを設置する。生体から出る微量の光をフォトンレベル (量子単位)で分析、臨床医学への応用や予防医学に寄与する。
■平成7(1995)年	
4月1日	医学部看護学科設置
■平成8(1996)年	
3月25日	国際交流会館竣工
■平成9(1997)年	
4月1日	院内学級「たんぼ学級」(小学校)を開設する。
■平成11(1999)年	
4月1日	大学院医学系研究科に名称変更 (修士課程・看護学専攻設置)
4月1日	院内学級「たんぼ学級」(中学校)を開設する。
■平成13(2001)年	
12月18日	探索的臨床研究施設竣工 浜松ホトニクス株式会社の寄附により、 国立大学では初めて設置、臨床試験の 第1相試験を実施する。
■平成14(2002)年度	
	知的クラスター創生事業 (浜松地域オプトロニクスクラスター構想)
■平成15(2003)年	
9月3日	21世紀COEプログラムに「メディカルフォトニクス」 ところとからだの危険を探るが採択される。 (平成15年度～19年度)

2004〔平成16年～〕国立大学法人／基礎づくり

■平成16(2004)年	
2月14日～3月1日	スマトラ沖地震・国際緊急援助隊に参加する。
4月1日	国立大学法人浜松医科大学設置
■平成18(2006)年	
4月1日	子どものこころの発達研究センター設置
7月	災害派遣チーム(DMAT)設置
■平成19(2007)年	
1月1日	分子イメージング先端研究センター設置 霊長類を中心とした疾患モデル動物を用いた分子 イメージング研究に係る人材を育成する。
5月7日	医大保育所きらりを開所する。
10月1日	がん教育研究センター設置
■平成20(2008)年	
4月1日	助産学専攻科設置
■平成21(2009)年	
4月1日	連合大学院「連合小児発達学研究科」に参加する。 大阪大学・金沢大学・本学 (平成24(2012)年4月千葉大学、福井大学が加わる)
6月29日	新病棟竣工
■平成23(2011)年	
4月1日	メディカルフォトニクス研究センター設置 量子医学研究センター及び分子イメージング 先端研究センターを改組・統合
4月1日	産学官共同研究センター設置
■平成24(2012)年	
4月1日	医学教育推進センター設置 医学及び看護学の教育等の改善や諸活動を 体系的に行い教育の質の向上を目指す。
4月1日	シミュレーションセンター設置 診断と治療のトレーニングを実施する。
■平成25(2013)年	
4月	文部科学省「地域資源等を活用した産学連携による 国際科学イノベーション拠点整備事業」に採択される。 主たる研究の拠点棟は静岡大学浜松キャンパス内に新設される。
6月11日	浜松を光の尖端都市にするための「浜松光宣言2013」の調印 本学・静岡大学・光産業創成大学院大学・浜松ホトニクス株式会社
8月	先端的質量分析イメージング施設の学術・産業共用 促進事業を開始する。
10月	文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構 「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」 拠点に採択される。

2014〔平成26年～〕国立大学法人／変革期

■平成26(2014)年	
3月	ISO 15189認定 静岡県で初めて臨床検査室の品質認定を取得する。
4月	「国際サービスマーケティング」プログラムを実施する。 ボランティア活動を通じ国際感覚を持った人材の育成、 コミュニケーション能力の向上を目指す。
■平成27(2015)年	
4月1日	大学院医学系研究科修士課程に 助産師養成コース設置(助産学専攻科を廃止)
■平成28(2016)年	
1月1日	光先端医学教育研究センター設置 メディカルフォトニクス研究センター、動物実験施設、 実験実習機器センター、産学官共同研究センターを改組・統合
4月1日	総合診療教育研究センター設置
7月11日	浜松医科大学基金設立
■平成29(2017)年	
1月	入試改革 「記憶力」重視から「論理的思考力、判断力、表現力」へ という国の方向性を先取りし、入試改革を行う。 個別入試の比重を高め、面接にプレゼンテーションを導入する。
■平成30(2018)年	
4月1日	大学院医学系研究科博士後期課程 (光医工学共同専攻)設置
■平成31(2019)年	
3月	医工連携拠点棟竣工
4月1日	産学連携・知財活用推進センター設置 知財活用推進本部及び光先端医学教育研究センター 産学官連携推進部を改組・統合
4月1日	国際化推進センター設置
■令和2(2020)年	
11月	浜松医科大学スマート・ライブラリ (附属図書館・福利施設棟)改修竣工 従来型図書館からSociety 5.0型への転換を図り、 ICT環境の充実、電子資料の整備、双方向対話学修や 国際コミュニケーション能力の向上の支援に資する 施設として整備する。



■令和3(2021)年	
4月	医学科カリキュラム改革 行動科学、医療倫理及び英語を6年間かけて修得する らせん型カリキュラムを構築。豊かな人間性と 高い倫理観に基づく共感力、コミュニケーション力等を 身に付け、卒業時に英語で医学や医療の討論ができる 語学力を形成する。
■令和4(2022)年	
1月	附属病院先端医療センター運用開始 手術室の増設、放射線治療室や外来化学療法センターの 充実、周産母子センターの機能強化を行う。
4月1日	大学院医学系研究科看護学専攻博士 後期課程設置 (大学院医学系研究科修士課程を大学院医学系 研究科看護学専攻博士前期課程に変更)
4月1日	次世代創造医工情報教育センター設置 学部学生へのアントレプレナーシップ教育及び データサイエンス教育を実施する。
6月	病院において臓器別の病棟再編及び臓器別センター設置
■令和5(2023)年	
6月11日	「浜松光宣言2013」の調印から10年経過し、 さらなる発展に向けて「浜松光宣言2023」の調印 本学・静岡大学・光産業創成大学院大学・浜松ホトニクス株式会社
12月25日	地域創成防災支援人材教育センター設置
■令和6(2024)年	
4月1日	光医学総合研究所設置 光先端医学教育研究センター及び 国際マスメイキングセンターを改組・統合
4月1日	産学連携・知財活用推進センターを廃止し、外部法人設立
6月7日	開学50周年



歴代
学長



【初代】吉利 和
昭和49年～昭和61年



【第2代】中井 準之助
昭和61年～平成2年



【第3代】川島 吉良
平成2年～平成8年



【第4代】山崎 昇
平成8年～平成12年



【第5代】寺尾 俊彦
平成12年～平成22年



【第6代】中村 達
平成22年～平成28年



【第7代】今野 弘之
平成28年～

浜松医科大学の現況(令和6年5月1日現在)

役員等	学長	今野 弘之	
	理事・副学長	渡邊 裕司	須田 隆文
	理事・事務局長	河本 雅弘	
	理事	斉藤 薫	鈴木 滋彦
	監事	西山 仁	村本 淳子
	副学長	松山 幸弘 間賀田泰寛 中村 和正	梅村 和夫 北川 雅敏
	学長特別補佐	才津 浩智	

職員数	
教員	412人
職員	1,291人



ヒポクラテスの木(昭和57年6月5日植樹)

学部等の構成			学生数
医学部	医学科		717人
	看護学科		251人
大学院 医学系研究科	医学専攻	博士課程	167人
	光医工学共同専攻	博士後期課程	12人
	看護学専攻	博士前期課程	45人
		博士後期課程	11人

診療状況		
外来患者	延数	360,884人
	1日平均	1,485.1人
入院患者	延数	192,657人
	1日平均	526.4人
手術件数		9,081件
分娩件数		582件
救急患者数		9,063人

令和5年度実績

外国人留学生	38人
--------	-----

国際交流協定・姉妹校	22校
------------	-----

卒業生数		
医学部	医学科	4,641人
	看護学科	1,757人

外部資金受け入れ状況		
科学研究費	253件	455,405千円
厚生労働科学研究費	4件	53,100千円
奨学寄附金	386件	726,912千円
受託研究	7,380件	876,182千円
共同研究	112件	83,291千円

令和5年度実績

学位授与者数	
博士(医学)	982人
論文博士(医学)	606人
博士(光医工学)	6人
修士(看護学)	341人

